



栽培学研究分野には、作物の成長のしくみ（生理）や生産物を作るためのしくみを明らかにし、栽培や育種に役立てるといった役割があります。栽培学研究分野では、私たちの食糧となるイネ、コムギ、ダイズを主に対象として、不良環境の中でも高品質な生産物がたくさん収穫できるようにするために、環境ストレスに対する作物の反応を明らかにするとともに、それを生かして新たな栽培技術を作り出すことを目標に活動しています。

研究テーマ

1. 環境ストレス条件下でのイネ、コムギ、ダイズの高品質・多収栽培
2. 環境ストレス条件下での根や根系の役割
3. アフリカの稲作振興に関わる栽培技術の開発

熊本県のパン用コムギ産地における登熟障害の実態調査

コムギの枯れ熟れ様登熟不良の原因究明とメカニズムの解明

水稻の高温登熟不良を軽減する栽培方法の開発



作物生産の **最前線** に立っています



県や国の研究機関との共同研究を通じて学生も地域農業の問題解決に取り組みます



タンザニアで展開するJICAの稲作振興プログラム(タンライス I および II)にも協力しています



作物に必要な根の機能(水の通しやすさや養分吸収)を生理学的に研究しています